

第2回 小郡市総合振興計画審議会 要録

日 時 平成 27 年 7 月 21 日（火）午後 2 時 00 分～午後 4 時 20 分

会 場 小郡市役所仮庁舎北棟 3階会議室 3-1

内 容

1. 報告
2. 議題 (1) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画序論（案）について
(2) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画（案）について
(3) 今後の計画策定スケジュールについて

議 事 詳 細

開会

1. 報告

(第1回審議会にて、委員より要望のあった基礎資料の提示、説明を事務局より行った)

①第5次小郡市総合振興計画（後期基本計画）策定体制

(説明概要)

後期基本計画策定に至るまでの、市民参画、審議会、市長、議会などそれぞれの役割と構成について説明を行った

委 員

今回説明いただいたものは、策定までのことであり、策定後どのような体制で実行していくかという点の説明がなかった。次回、それを含めた体制図を提示いただきたい。

②財政の現状

(説明概要)

平成 25 年度までの本市の財政状況と、平成 32 年度までの財政推移の試算について説明を行った。

委 員

市税が平成 17 年度以降増加している要因は何か。

事務局

国の三位一体改革にともなう税源移譲と、その後の景気変動によるものと考えています。

委員 人件費がなだらかに減少傾向にあるが、カウント方法によるところもあるのではないか。たとえば臨時職員への給与は人件費に計上されているのか。

事務局 嘱託職員の報酬は人件費ですが、臨時職員の賃金は人件費とはしていません。

委員 第5次総合振興計画においては、人口増加を目標としているが、今後の財政試算は人口増加を見込んで行っているのか。

事務局 財政試算においては、人口増加を見込んでの試算はしていません。

委員 扶助費の具体的な内容は何か。

事務局 児童手当や生活保護費、医療費といった社会保障費用です。

委員 市役所の正規職員や嘱託職員の割合は、現状どのようなものか。

事務局 正規職員はおよそ340名、嘱託職員はおよそ200名です。

委員 平成21年度から扶助費はなぜ増加していたのか。

事務局 民主党政権下のこども手当での新設によるものです。

委員 本市のインフラ整備において、今後予定のあるものはなんですか。

事務局 大原校区公民館、下水道整備、都市計画道路の整備、施設の老朽化対策などや、検討課題のものとしてはありますが総合体育館や道の駅が考えられます。

委員 財政試算に、後期基本計画策定により実施が予想される事業は、算入されているのか。

事務局 現状の試算はあくまでも推計値です。本審議会での議論等をふまえ、試算について協議していくこととなります。

委員 経常収支比率が、平成 22 年度以降増加傾向にあるが、行政改革等の中で要因や対応策はしぼっているのか。

事務局 市財政課においても県とヒアリングを行っていますが、現状、これといった要因は特定されていません。そのため、行財政改革を様々な分野で取り組んでいく必要があると考えているところです。

ただ、扶助費が増加していることが、そうした傾向に影響を与えているとは考えられます。

③人口推計

(説明概要)

本年度までの人口の推移と、本年度以降の社人研の人口推計をもとに説明を行った。

委員 東京等の大都市への転出データや人口が相対的に変動することから急変する可能性もあることをふまえ、もっとシビアな推計を行ったほうがよいのではないかと。

委員 人口減少への対策として、市はまち・ひと・しごと創生に取り組んでいると思うが、その視点は今後の後期基本計画の中に反映されているのか。

事務局 まち・ひと・しごと創生については、現在、地方版総合戦略の策定に取り組んでおり、その根幹となるのは総合計画であります。総合計画の中で地方版総合戦略についても位置づけていくよう考えています。

委員 次回審議会では、総合計画の中にどのように反映されているかを示す資料を提示いただきたい。

人口減少にともなうマーケットの縮小は深刻な問題。市は、人口を減らさないとか、働く場を確保するとか、方針を明確に定める必要がある。

委員 「将来これだけの人口が減るから、この 5 年間はこれをやるんだ」というような、明確な視点が必要だと思う。

委員 大学が終わった後でバイトするところもない、というようなところなど、本市は若い人が魅力を感じにくいのかもかもしれない。地元で高度な教育

が受けられることは大切であり、視点を検討してほしい。

④ 市内横断的プロジェクトチーム等の体制及び策定本部会議協議報告

(説明概要：市内横断的プロジェクトチーム等の体制)

複数課にまたがる横断的な組織などで、平成 27 年度に実施（予定も含む）するものについて説明を行った。

(説明概要：策定本部会議協議報告)

また、審議会での議論や基礎調査における市民の声を市内で検討し、いただいた意見を計画に丁寧に反映すること、市税が高いなど市民が誤解している点については正確な周知が必要であること、などの結論に至った旨を報告した。

委員

アンケートを例に挙げて言えば、どこのアンケートでも市立病院の要望が多いが、財政的な面や時代の流れから設置は難しいため、代替案や、市ができることできないことを、しっかり市民に伝えることが重要だ。

(1) 第 5 次小郡市総合振興計画後期基本計画序論（案）について

(説明概要)

序論（案）として、本市の人口や産業の現状、基礎調査の要約について説明を行った。

委員

平成 32 年度の目標人口 65,000 人は、現実的にかなり厳しいと思う。あまりにも現状とかけ離れているため、再度検討する必要があるのではないか。

委員

やはり、リアルな目標値に近づけた方がいいのではないか。

事務局

人口については、基本構想に係る内容であるため、10 年間の目標として、5 年前に決定したものです。ただし、策定本部でも議論となった点であり、現状、結論は出ていません。

委員

今後、宅地開発などにより、62,000 人までは増加する可能性があるということは理解できる。それでは 62,000 人から 65,000 人まで増加する要因があるのかどうかという視点で検討していただきたい。

- 委員 これまでの政策をふまえて推計した数値が 65,000 人に達していない状況の中では、目標人口を修正する議論が必要であると考えている。もし、引き続き 65,000 人を目標とするなら、そこに届くための新たな政策を検討する必要がある。
- 委員 働き場所について考えなければ若い人は出ていく。干潟の工業団地の開発を進めているのは分かるが、他に何も明確な施策がなく、漠然と 65,000 人では理解しがたい。
- 委員 雇用を生むのは難しさもある。子育てしやすいまちづくりを推進し、子育て世代が定住するようアピールするという視点もあってよいのではないか。また、医療においても、プライマリーケアなどの視点があってもよいと思う。
- 委員 子育てしやすいまちについては、財政状況が厳しい中では経済的支援以外の部分が重要であるが、そのあたりの議論が不足している。医療についてもこの地域に何か不足していることを感じる。
- 委員 医療について言えば、全国的な課題でもあるが個々の取組みはそれぞれが熱心に取り組んでいるが、つながり、協働の部分は不足している。今回の計画の中でも位置づけられているので、推進してもらいたい。また、今後、移動手段がない高齢者が増えてくる中で、バスの問題は重要である。
- 委員 「小郡市のこの部分はどこにも負けない」というものを作って、市民に成功体験を与えることも必要と思う。
- 委員 本市は福岡県下でも小・中学校の教育の質が高いと思うが、逆にそれが若者の都会への流出へつながっている部分もある。やはり魅力ある雇用がないといけないのではないか。
- 委員 久留米市でさえ、地元に残るのは家業ある人や医者など、地元有缘のある人という傾向が強い。雇用で若い人を留めようとするのは厳しい所もあると思う。30代の人達に、一生を過ごすならば小郡がいいと、選ばれるような観点での検討が必要ではないだろうか。
- 委員 空き家を活用した高齢者シェアハウスを行うなど、現実的な対策の話を

していくことが必要だ。

委員 東日本大震災以降、東京から地元へのひとの流れはあるが、まずは福岡に住んでしまう。本市は西鉄沿線以外の地域へはアクセスが不便で車が必要であることや、生徒数の少ない学校で子どもを育てる不安や、市のホームページに魅力がないなど、本市へのひとの流れになっていかない要因はさまざま考えられる。

委員 たとえば、三国が丘駅前に無料駐車場をつくるといった発想やしかけが、今、求められているのではないか

委員 若い世代はアンテナをはっているので、ちょっとしたしかけでも引きつけることはできると思う。

委員 IT関連の仕事などは、ネット環境が充実していれば都会に住む必要がない。本市に住んで働くことはできると思う。

委員 外から人口を増やすことやその方法だけにこだわるのではなく、「今住んでいる我々が楽しく幸せにやっている」というまちづくりも必要ではないか。その結果として、人が来るのではないか。

(2) 第5次小郡市総合振興計画後期基本計画（案）について

(説明概要)

後期基本計画として、基本構想の6の政策目標にもとづいた施策案を説明した。

委員 近隣で大きな企業誘致を行った例が最近あったが、このような要請に応じられるよう、工業団地の造成を行い、アンテナをはって企業誘致に取り組んでいただきたい。

天の川大橋から端間橋にかけて、御原校区の協働のまちづくりで草刈りや除石作業を行っており、ぜひ計画に成果として記載してもらいたい。

委員 そのような市民参画の成果については、全施策で記載してはどうか。

委員 おごおり女性協議会への支援について記載があるが、その活動内容についても、記述をしていただきたい。また、(全施策について) 成果指標は

もっと具体的なものがあってもいいと思う。

(3) 今後の計画策定のスケジュールについて

(説明概要)

今後の審議会開催の日程を中心に策定までのスケジュールについて説明した。

(会議の閉会にあたり総務部長より挨拶)

閉会